



君に届け

カラー版やバック
ナンバーは「ホーム
ページ」で検索

令和7年10月20日
校長 菊川 靖浩
熊本市西区小島8丁目 17-1
TEL 329-2792
FAX 329-2817

< 点をつなげる >

今回はドムドムバーガーの「藤崎 忍」さんのお話です。藤崎さんはもとアパレルメーカー勤務でしたが、その後、居酒屋で働いていると、お客さんの中からスカウトされドムドムバーガーに転職。その後、業績をV字回復させたそうです。以下はPHP 令和7年11月号からの抜粋です。

(前略) 私(藤崎)には失敗という概念も、「がんばっているのに報われない」という感覚もありません。スタッフにはよく「失敗ではなく途上だよ」と伝えていきます。たとえば試作したメニューがおいしくなかったとして、そこで「失敗」ととらえると思考が止まり、マイナスの記憶だけが残ります。でも、改善策を考えるなかで気づきを得たり、うまくいった商品と比較して改良を重ねられたり……。挑戦を経て一つでもよかった点を見つけられたら、それで充分だと思います。人の生死にかかわらない限り、取り返しのつかないことはありません。

つらかった時期を乗り越えて思うのは、悲観するより笑顔でいるほうが楽ということ。今まさに、希望を失いかけている状況の方もいるかも知れません。でも、そんなときに泣いていても、私は悲しくなるだけでした。「きっとできる」「私にはいいところがある」と自分をはげましてみてください。無理にでも笑っていると、気持ちも明るくなります。希望を持って生きるには、今を信じるのが大切だと思います。「こうなりたい」と目標を掲げてもいいのですが、高い理想にこだわると、現状とのギャップに悩んでしまいかねません。状況が変わることもありますから、「こんなはずじゃなかった」とならないためにも、そのときにできることを柔軟に考える必要があるのです。人生に無駄な経験は一つもなく、すべては「点」だと私は思っています。一見、関係のない出来事でも、点と点が線になり、面になり、立体となって、自分を作り上げます。苦しみの中にいるときは、「この経験も自分を形作る点になる」と思えば、前を向けると思うのです。

私は子どもたちが卒業するときや、辛い立場の人には、「あなたは一人じゃない」と伝えたいと思っています。熊本市のいじめアンケートでは、いじめを見た時に、話を聞いたりはげました47%、家族に相談した26%、友人先輩に話した25%、先生に相談した21%、注意した20%など勇気を与えてくれる結果が出ていました。

地球上に何十億人という人間の中で、縁あってそれぞれの所属の一員として生活している私たち。それは子どもたちだけでなく、私たち大人も同じです。人生には3度歯を食いしばって頑張るときがあるといいます。今がその時の人もいるでしょう。「あなたは一人じゃない」。一緒に乗り越えていきましょう。



< 市中体連駅伝競走大会 >

15日(水)は市中体連駅伝競走大会があり、子どもたちはこの日に向けて夏休みから練習を頑張ってきました。選手決定は、直前のけがやタイムの伸びなどを考慮するため前日に行うことが一般的です。選手になれなかった子どもたちは悔しかったと思いますが、しっかり選手をサポートしていました。競技は女子から始まりました。どの選手も全力で走り、私も大きな声で応援しました。女子の部が終わり男子がスタート。女子は私の近くで応援していました。1走の本田君が団子状態で走ってくるとみんなで応援しました。しかし、2走目から驚く場面を目にしました。それは本校の女子達が、全ての学校の選手に対して「がんばれ」と声を掛けていたのです。私はその声を聞いてとてもうれしくなり、私も全ての学校の選手を応援しました。こんな子どもたちが城西中にいることを誇りに思います。参加した皆さん、そして、子どもたちのために、自腹でさまざまな物品ををそろえながら指導していただいた先生方。心からありがとうございました。



文化発表会のようなすは次号でお伝えする予定です。